



創立151年

教育目標 わたしから考える子 にこにこ元気な子 つづけてがんばる子 こころを合わせる子
わにっこり

和邇小だより 令和7年 春休み号

児童数385名 文責 澤村幸夫



卒業証書授与式 3/18



校庭のスイセン：1か月半遅れの開花

3月18日（火）に、令和6年度卒業証書授与式を挙行了しました。別れを惜しみながら、卒業生69名が本校を巣立ちました。在校生代表である5年生が参列し、卒業生の門出をお祝いしました。

6年生は、全校児童のリーダーとしてあらゆる場面で活躍しました。毎日の学校生活を豊かなものにしようと委員会活動に力を入れてきました。運動会の集団演技は、練習時の真剣さが伝わるほど見る人の心を動かし、最高のパフォーマンスを披露してくれました。日経につれて上達していく6年生の姿は自信に満ち溢れていました。全校児童のあこがれでした。

修学旅行では、神戸にある「人と防災未来センター」を訪れ、防災学習を原点から見つめ直しました。級友と宿泊することの意義をあらためて考えさせられました。姫路セントラルパークでは、楽しい思い出をたくさんつくることができました。

4月からは中学生になります。中学校では、さらに自分で考え、自分で決断する機会が多くなります。社会に出る第一歩を踏み出す場所となります。和邇小学校で培った「わにっこ」の合言葉「わたしから考え」「にこにこ元気に生活し」「つづけてがんばり」「こころを合わせる」ことを思い出し、卒業後も実践していきましょう。卒業おめでとう。そして、みなさんの未来に幸せが多いことを祈っています。

6年生を送る会*

*

3月4日（火）、卒業を目前にした6年生に感謝の気持ちを伝えるため、次期リーダーである5年生が企画し「6年生を送る会」が開催されました。4月から全校児童を引っ張る5年生は、実行委員会を組織し、企画について話し合い、アイデアを出し合いました。各学年からは、6年生に楽しんでもらえる内容を企画・準備し、当日はたいへん盛り上がり



6年生を送る会

紙面配布のみ表示



期間限定 3/24~4/30

ました。6年生への感謝の気持ちと、これから学校を引き継いでいく決意が感じられる素晴らしい「6年生を送る会」となりました。ダイジェスト版として動画にまとめましたので、ご覧ください。



ご支援・ご協力ありがとうございました

令和6年度の学校生活も、本日をもって終了します。学校教育目標「和邇を愛し、心豊かに友とつながり、学び合う」を具現化するべく、子どもたちにつけたい力を焦点化しながら、様々な教育活動や行事を実施して参りました。令和7年度も「わにっこ」の健やかな成長のために、改革を含めさらなる教育活動を推進して参ります。保護者の皆様や地域の皆様には、本校の教育活動に多大なるご支援・ご協力をいただき、誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

さて、今年度の学校だより「わにっこり」でシリーズ「未来への扉」と題して、子育てのヒントとなるようなことを共に考えてきました。かけがえのない子どもたちの育ちについて、これまで私自身が受けてきた多くの研修（有料）や書籍で最新を学んできたことや、日頃から子どもたちと接する中で感じていることを述べてきました。子どもたちは、保護者や家族、地域の皆様との関わりの中で、日々成長を続けています。人と人が関わる時の言葉や振る舞いは、人の心を温かく包み込み、幸せな状態「ウェルビーイング」につながっています。（「学校だより『わにっこり』を毎回読んでいますよ」「毎回楽しみにしています」などという声が届くことがあり、私自身も勇気をいただいています。）

3学期末、6年生が卒業した翌日からは、5年生を最高学年とした学校生活でした。登校班の様子を見ていると、新リーダーのもとでまとまって登校し、元気に挨拶してくれる姿がありました。子どもたちなりに、次年度に向けての準備をしてくれているように思います。雨の日も雪の日も、交差点や辻ごとに立って、子どもたちの登下校の安全を見守ってくださいました多くのスクールガードや地域ボランティアの皆様、ありがとうございました。

年度末、子どもたちは、慣れ親しんだ学級の仲間や担任と離れることに不安やさみしさを感じるものですが、一方でこれからの新たな出会いにも期待が膨らみます。別れと出会いは、人生における大切な節目であり、自分を大きく成長させる機会でもあります。毎年のことではありますが、期待や不安に心が揺れる時期ですので、お子さまの不安を少しでも和らげ、期待を大きく膨らませていただけるよう、温かな声掛けをよろしくお願いいたします。

ターン オーバー ア ニュー リーフ Turn Over a New Leaf 何かを新しく始めること



3月から4月にかけて、新たな始まりにうってつけの英語表現に“Turn Over a New Leaf”というものがあります。「新たな1ページをめくる」というような意味です。心機一転、新たなことに挑戦してみよう、という場合によく使われる表現です。

私たちは、自分のことをよく分かっているつもりですが、自分の中にはまだ自分も気づかない多くの可能性が眠っています。もっと自分を広げたい、可能性を伸ばしたいという気持ちが学ぶ意欲につながっていくのだと思います。1年前の自分にはできなかったことが、今、できるようになったことって、たくさんあるはずです。できなかった計算ができるようになった、縄跳びが跳べるようになった、泳げるようになった、サッカーがうまくなったなど、子どもたちは実に多くのことを身に付け自分を広げてきました。新年度を迎えるにあたり、子どもたちには、また新たな1ページをめくってほしいと思います。新たなことに挑戦し、また新たな自分を発見してもらいたいです。失敗を恐れずに、着実にゆっくりと、仲間とともに成長してもらいたいです。

シリーズ「未来への扉」 第14弾「夢中になれる力」

このコーナーは、子育てと子どもの幸せをサポートする情報を提供するニュースレターです。子育てのヒントやこれからの時代に大切にしたい教育の話、健康で幸せな生活に役立つ情報を掲載したいと考えています。子どもは「地域の宝」です。未来をたくましく生きる子どもたちにつけてほしい本当の力とはいったい何か、子どもが生涯にわたり幸せに生きていくには、周囲の大人はどんな関わりを大切にしていけば良いのか、共に考えていきたいと思います。

第14弾は「夢中になれる力」についてです。



学校のアクアマリンネオンテールグッピー
本文との関連はありません。

和邇小学校に校長として赴任してからあっという間に3年が過ぎ、年度末を迎えました。この3年間、子どもたちが授業、行事、遊びに取り組んでいる姿を見してきました。そうした姿を見るたびに清々しい気持ちになるのは、和邇小の子どもたちが何にでも夢中になって取り組んでいるからです。授業で熱心に手を挙げる姿、心を込めて発表する姿、全力でかけこをする姿などに感銘を受けてきました。この感動は、素晴らしいスポーツの試合を観た時や美しい音楽を聴いたときに通じるものがあります。優れたスポーツ選手や演奏者もまた、一心に夢中になって自分の仕事に打ち込んでいるからだと思います。

6年生はこの春で小学校を卒業し、中学校へと進学します。中学校へ進んでも、小学校で夢中になって取り組んだ経験を忘れないでほしいと願っています。

もちろん思春期に入ると、自分を見つめるもう一人の自分が出現し、周囲からどう映っているかという客観的な捉え方をするようになります。自分を外から眺めるメタ認知は、成長する上で欠かせないものです。他者と自分を比較し、落ち込んでしまうこともあるかもしれません。しかし、最終的には、悩みを乗り越え、長所も短所もひっくるめて自分を受け入れることが、幸せに生きるために必要です。言い換えると、いろいろ悩んだけれど、小学校の時のあの夢中だった自分に戻る、ということになるのです。

私が大学生の頃、教育学を学ぶ中で灰谷健次郎さんという作家に興味を持ち、大きな影響を受けました。灰谷健次郎さんは、もともと小学校の教員でしたが、現実に絶望し教員をやめ、沖縄に移り住んだ人です。そこで沖縄の人々の優しさに触れ、『兎の眼』、『太陽の子』など、子どもを主人公とした作品を発表していきます。それらの作品に一貫してあったメッセージは「子どもこそ人間の本来あるべき姿だ」というものでした。あれから40年近く経過した今、このメッセージを改めてかみしめるようになりました。小学生のように夢中になっていることこそが、幸せなのです。夢中になっていれば、他人の目を気にすることも、失敗を恐れることもありません。



学校のシルバーアロワナ
本文との関連はありません。

もちろん、大人になってお金を稼がなければならないということになると、嫌でもやらなければならないことが出てきます。しかし、小さなことでも夢中になって喜ぶことができたあの子どもの頃の気持ちを忘れなければ、幸せになるハードルはぐっと下がります。いろいろなことに感謝の気持ちが持てるようになります。和邇小の子どもたちには、ぜひ幸せな大人になってもらいたいです。そのためにも、和邇小で「夢中になった記憶」をいつまでももち続けてほしいと願っています。

8の字跳び：勝利宣言

紙面配布のみ表示



期間限定 3/24~4/30

年度末に嬉しいニュースがありました。8の字跳びに挑戦した和邇小6年のチーム名「勝利宣言」(ビクトリーラッシュ)が、滋賀県で第1位に輝きました(3分間8の字跳び: 888回:歴代最高記録)。8の字跳びにかけるメンバーの情熱が、この結果を生みました。「奇跡は努力で起こすもの」、まさに夢中で駆け抜け努力を続けた1年間の道のりでした。左の動画をぜひご覧ください。やはり、「本気で夢中になれる」ということは素敵なことですね。